

広島県知事の湯崎です。

県では、新型コロナウイルス感染症の検査体制を強化するため、医師会等と連携し、この度、身近な街のクリニックで唾液による検体採取を開始しました。

皆さんに身近な、風邪でかかるような診療所の約半分から協力の申し出があり、これにより今までの約15倍、検査窓口が増えることとなります。

どのように唾液の検体を取るかといいますと、このストローを使って唾液を1ミリから2ミリ程度このケースの中に出していただきます。唾液を入れた後は、ストローをそのまま中に入れて、蓋を占めれば終わりです。

このように患者ご自身で採取していただくため、医療従事者の飛沫感染のリスクが減ります。

この唾液検査により、医師の判断でその場ですぐに検体を採取して検査に回すことができるため、より多くの検査ができるようになり検査

結果が出るまでの時間も大幅に短縮できます。

こうした唾液検査の対応がまだ整っていない医療機関でも風邪に似た症状があればすぐに検査へ誘導します。

皆さんも、風邪かな？と思われたらすぐにお医者さんに相談してください。